



いいで町

196号

議会だより

子どもたちに居場所を



NPO法人ほっと
地域と子どもたちの交流事業

表紙の説明は次ページにあります

12月定例議会



携帯・スマホからアクセス!

12月定例会	6年7月豪雨災害農地等復旧へ…P2
政策提言	教育環境の整備他……………P4
町政を問う	9名が新町長に一般質問……………P5
議員視察研修	長野県飯綱町……………P14
町民からのメッセージ……………	P16

復旧中心の補正予算を可決

12月定例会

一般会計補正予算（第7号）は
1億2,084万円を追加し
総額79億8,849万円に

主な歳入

（青字：災害復旧関連）

○公共土木施設災害復旧費	2,635万円
○地方交付税	2,624万円
○小規模農地等災害緊急復旧事業費補助金	300万円
○森林資源デジタル管理推進対策事業費補助金	1,900万円
○新型コロナ定期接種ワクチン確保事業助成金	266万円
○コミュニティ FM放送設備改修事業債	180万円
○公共土木災害復旧事業債	2,500万円

主な歳出

（青字：災害復旧関連）

○令和6年7月豪雨に係る災害復旧工事請負費	5,136万円
○農地等災害自力復旧支援事業費補助金	2,000万円
○尻無沢川土砂浚渫に係る工事請負費	480万円
○住宅取得奨励に係る報償費	300万円
○福祉の里めざみ改修事業補助金	346万円
○農業水路等長寿命化・防災減災事業（ため池廃止）	△500万円
○航空レーザー測量森林資源解析に係る業務委託料	1,900万円
○白川ダム周辺整備事業（コテージ不動産鑑定）	100万円

令和6年12月定例会は、12月5日から13日までの9日間の会期で開催されました。一般質問は議長以外の9名が、2日間にわたり町政をたどしました。

第6日目の議案審議では、**農地等補助災害復旧事業費3000万円を含む一般会計補正予算（第6号）**の専決処分の承認、条例関係が3件、一般会計補正予算（第7号）**6年7月豪雨災害・農地復旧を含む各会計補正予算の8件**を審議し、原案のとおり可決しました。

第7日目以降は、総務文教・産業厚生各常任委員会において所管事務調査を行い、最終日には、追加提案された一般会計補正予算（第8号）などを原案どおり可決し、閉会しました。



●NPO法人ほっと子どもたちが安心して通える居場所として、椿地区を拠点に活動しているNPO法人です。日本全体が少子化の中、飯豊町も例外ではなく、本年は年間出生数が20人に達しない状況となっております。

学校や地域、また家庭においても、少子化ゆえに抱える課題も多く、子どもたちの活動範囲も狭くなってきています。「ほっと」は、そんな社会環境の中でも子どもたちが安心して集えるよう、地域や行政とともに見守り活動を実践しています。

表紙の説明

6年7月豪雨からの災害・農地

12月定例会の結果

◆集会施設等設置条例の一部を改正する条例

【提案理由】

集会施設等における施設の位置について、現況との整合性を図るため

◆国民健康保険条例の一部を改正する条例

【提案理由】

診療報酬の算定方式の一部を改正する告示に伴い、引用条項を整理するため

◆空き家等の適正管理に関する条例の一部を改正する条例

【提案理由】

空き家等対策の推進に関する特別措置法の一部を改正する法律の施行に伴い、所要の規定の整備を行うため

【結果】

全ての条例改正を賛成全員で可決



またも豪雨災害に見舞われる

補正予算

●コロナワクチン

横山議員 新型コロナ

定期接種ワクチン確保事業助成金266万円の内容は。

健康福祉課長 65歳以上及び60歳以上65歳未満の心臓・腎臓・呼吸器機能障害などの重症化リスクのある方の接種費用に国・町から助成するもの。

●航空レーザー測量

遠藤(純)議員 持続可能な森林づくり事業の航空レーザー測量森林資源解析業務委託1900万円の事業内容と活用方法は。

農林振興課長 この測量により中津川地区以外の森林を測量解析し、境界・地形・樹種・本数を確認する。成果品はGIS(地図情報システム)のデータとしても活用する。

●ため池廃止事業

高橋(勝)議員 ため池廃止事業500万円が、減額補正となっている。未採択理由と、そのための悪影響はないのか。

農林振興課長 添川地内のため池であり、県の定額補助の事業で倍率が高い事業であったため未採択となった。危険性はないが次年度以降も申請していく。

●福祉の里めざみ

遠藤(芳)議員 福祉の里めざみ施設改修工事補助金346万円の内容は。

健康福祉課長 施設内給湯管が老朽化しており、この改修工事が必要となったため。

●防犯灯

屋嶋議員 防犯事業の光熱水費37万円は、当初予算時に見込めなかったのか。

住民課長 当初これほど高騰するとは見込めなかった。今後の状況も含め、3月までの必要額を計上した。

●住宅取得

舟山議員 飯豊で幸せになる条例の住宅取得奨励300万円の件数は。

企画課長 1戸当たり30万円で、10戸を見込んでいます。

●支援事業の内容は

高橋(亨)議員 新規就農者支援事業補助金14万円の事業内容は。

農林振興課長 2名分の家賃支援である。

【結果】

賛成全員で可決

◆水道事業

●委託料の増額理由は遠藤(純)議員 400万円の増額理由は。

地域整備課長 令和4年豪雨災害以降の濁りを取るために、委託料がかかり増しているため。

【結果】

賛成全員で可決



フル稼働の小白川浄水場

町に対し政策提言

教育環境の整備・ 災害復旧・商工業支援を

政策提言の趣旨

飯豊町議会基本条例では、「町民の意見を把握し、政策形成に反映させるため、意見交換会を開催する」と定めています。本年度も、女性の方との懇談会、各団体との意見交換会や教育懇談会を開催し町政に対する提言をまとめました。また本年7月25日に発生した大雨により、令和4年8月豪雨で被害にあった道路や河川、農地等の再被災も大きな問題です。本提言が議会の総意として集約されたことを認識され本町の行政施策に反映されるよう提言した。

1 教育環境の整備について

義務教育学校は施設分離型から一体型へ方針が変更され、そのための準備をすすめていると聞けが、教員配置や環境整備において準備不足が否めない状況にあり、令和8年4月開校については延期する方向で検討しているとの報告を受けた。しかし、少子化に伴う現状の課題は年々深刻化しており、以下を提言する。

1 義務教育学校の開校が延びる場合は、手ノ小学校および添川小学校の複式学級を早期に解消する手立てを講ずること。



菅野議長より嵐町長に
政策提言を手渡す

2 JRR米坂線の早期復旧について

被災後2年4ヶ月が経過しても未だに復旧されていない。90年もの間通勤通学はじめ多岐にわたり利用してきた公共交通施設であり、以下の取組を進めるよう提言する。
1 国・県・JR東日本などに対し、早急に復旧を図るようさらに強く要請すること。
2 米坂線不通によって観光関係に大きな影響を与えているため、必要な支援を行なうこと。

3 被災箇所早期復旧と抜本的な対策について

本年7月25日の豪雨により4年8月水害の工事箇所が再被災するなど、50年に1度と言われる豪雨が毎年発生しており、安全・安心の町づくりの観点から以下を提言すること。
1 国や県に対し、早期に工事が完了するように働きかけること。
2 砂防ダムの設置や既存ダムの浚渫などを関係機関に働きかけること。
3 山林の荒廃が進み豪雨被害を大きくする原因となっており、山林の保全に対し必要な措置を行なうこと。

4 商工業を守るための支援について

町内商工業関係者は、長期にわたるコロナウイルス感染症による影響から脱しかけた途端、原油高騰をはじめとした物価の上昇による著しい影響を受けており、町内商工業を守るため更なる支援を行なうよう以下を提言する。
1 原油価格高騰等の影響に対する事業者への支援
2 商業関係者が存続できるための町民による買い支えに対する支援
3 商工団体が行なうイベントや事業に対する個別支援
4 事業承継しやすい体制づくりに対する支援
5 商工会の運営に対する支援。

一般質問

町政を問う

一般質問とは、定例会において各議員が住民の代表として行財政全般において町当局の考え方や疑問をたずねることです。

一般質問に全議員が登壇



録画中継を見ることが出来ます

島貫寿雄 議員 5ページ下段	町長とはどんな存在と考えどんなリーダーを目指して行くのか
松山和好 議員 6ページ上段	これから我町は農畜産林業で立ち直る
高橋勝 議員 6ページ下段	今後の財政確保策・移住定住支援策を問う
横山清彦 議員 7ページ上段	安心安全に暮らし続けられる行政への取り組みについて
遠藤純雄 議員 7ページ下段	本町の課題解決と農林業の所得向上策は
屋嶋雅一 議員 8ページ上段	公約から町政運営を問う 災害復旧復興が急務であり対応は
高橋亨一 議員 8ページ下段	暮らし満足度 No1の町実現にむけたまちづくりについて
舟山政男 議員 9ページ上段	これからの飯豊町立義務教育学校について
遠藤芳昭 議員 9ページ下段	電池バレーの対応・JR米坂線の復旧の対応・脱炭素の取り組みは

一般質問は質問した議員が自らの責任で執筆しています。

町長とはどんな存在と考 え、どんなリーダーを目 指して行くのか

町長 大好きな飯豊町をもっと良
くする存在。職員や住民の
気軽なリーダー

最初に町長を目指し
た強い思いとは

質問 町長に就任され
た現在の思いは。

町長 職員時の経験を
通じて成長させていた
だき、町民の皆様の声、
意見を反映して町政に
生かすべく町長を目指
した。

質問 町民が何を求め
ているのかしっかりヒ
アリングし最大公約数
を見つけ行政サービス
をして欲しい。

町長 トップダウンで
はなく、町民の声を聞
いて町政に生かしたい。
役場においては職員と
同じ目線で仕事をし、
町民の意見のまとめ役

をして町政運営に努め、
公平な町政を心がける。
職員とは今まで同様良
好な関係性を保ちなが
ら仕事をしたい。

質問 前町政の強みと
課題は。

町長 前町長は災害発
生時の指導力等、多く
の長所や魅力をもって
おられた。良いものは
継続し、改善すべきは
見直しを行う。

質問 役場職員の意識
改革と議会との対応は。

町長 町長室を開放し
たり、まちづくりセン
ターでの相談体制の充
実強化で職員を含む効
果的な協働のまちづく
りを目指したい。議会
とは、選挙が終われば

増額の具体策は。
町長 農業関係の希少
な新商品、隠れた名品
を掘り起こしての新規
参入を図って行きたい。



島貫 寿雄 議員

町の発展ビジョンと
取り組む優先事項は

質問 最重要課題の財
政再建と、その施策は。

町長 公約の五つの柱
で実行できる取り組み
はすぐにでも実施した
いが、厳しい財政状況
の改善が必要。ふるさ
と納税の増額等で自主
財源を増やして行きた
い。

質問 ふるさと納税の

増額の具体策は。
町長 農業関係の希少
な新商品、隠れた名品
を掘り起こしての新規
参入を図って行きたい。

これから町を立て直すには
農畜産林業であり、その後
ろ支えが必要

町長 町の基幹産業は農業と認識し、様々な施策・方法を用いて押し上げていく



松山 和好 議員

質問 地球の緯度からみても飯豊町は農業の適地であり、きれいな水・空気があり、広い土地もある。高品質の農畜産物を高単価で購入したくために、いろいろな施策は農業を絡めたものにすべきではないのか。

町長 当町の基幹産業は農業であると認識している。さまざまな場面でも米・食肉などの販路拡大に努め、なり手不足の解消をめざし、若者が目を向ける農業にしていきたい。

まず初めに県・国からの予算獲得手法を研究していきたい。



飯豊町は農業に適している

質問 私から見ると、なぜ近隣のニュータウンに飯豊産農産物を売りに行かないのか不思議だ。また、生産者達の考えを聴くために、生産者達が気軽に集まれる場所を設けるか、町役場の中にそういう



需要の宝庫ニュータウン

厳しい財政運営のなか
今後の財源確保策は

町長 歳出の見直しとして
事務事業評価を行う



高橋 勝 議員

廃止・見直し・継続の判断基準は

質問 町長は既存事業を総点検し、あわせて「ふるさと納税の増収」にも言及されている。

①廃止・見直し・継続の判断基準は。
②増収策よりも歳出見直しを。ふるさと納税の55%占める「町長おまかせ」は使途が不明であり、廃止を提案するが町の考えは。

町長 ①行財政改革による歳出見直しが必要不可欠であり、これから既存事務事業の中から60事業を選定し、「事業検証シート」で事務

事業評価を行う。

②町で自由に活用してほしいとの声もある中で、町長おまかせは継続していきたい。

再質問 使途を公表することが、納税していただいた方への責務と考える。寄付金の充当事業と充当金額の公表を提案するが町の考えは。

町長 「町長おまかせ」への寄付金は、さまざまな事業に割り振りして活用している現状であり、財政と相談して表現のあり方も含めて検討したい。

今後の移住定住支援策は

質問 現在でも「飯豊で幸せになる条例」で、奨励措置がある。新規項目や追加項目の具体的内容は。

町長 現条例の設定期間が7年度末までとなつているため、来年度にアンケートを実施し、現在の奨励内容を分析検討したい。

※他に高校生就学支援・大学生奨学金支援・官民一体型の空き校舎活用プロジェクトチーム設置を提案。

町民が安心安全に暮らし続けるには

町長 環境整備、情報伝達体制の強化で対応

デジタル田園都市国家構想交付金を活用

質問 災害を未然に防ぐ環境整備、情報伝達体制の強化にどのように取り組んでいくのか。
町長 統合型GISの整備を進め、ハザードマップの情報もデータとして整備し、町民がインターネットで閲覧できるように準備を進めており、情報提供の多様化に取り組んでいる。

※GISとは地理空間に関するデータを取り扱うシステムで地図や統計データなどを可視化し、分析や計画に役立てるためのツール



横山 清彦 議員

質問 有事の際、高齢者の一人暮らし、身体の不自由な方の避難体制の強化について、どのように取り組んでいくのか。

町長 避難行動要支援者台帳の整備計画があり、75歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方、高齢者世帯等を把握して同意の上で自主防災組織との情報共有をして取り組んでいる。

出産に際して

町の支援が必要

質問 出産時に加入している公的医療保険制度から支給される出産育児一時金が令和5年

4月から50万円に引き上げられたが、県の事業で出生届時に支給されるおむつと併せて町の支援が必要ではないか。

町長 人件費や物価高騰の影響で出産費の値上がり傾向が続いていることや、分娩形態の多様化により出産費用が経済的負担となり出産を諦めることがないよう、おむつの支給と併せて町独自の自己負担軽減策を講じたいと考えている。

本町の課題解決と農林業の所得向上策は

町長 事業の見直し等により取り組む

本町の未来をどのように考えているか

質問 今後の飯豊町をどのようにイメージし、現在の課題をどのような政策で克服していくのか。
町長 基本的には第5次飯豊町総合計画で掲げる基本理念「やっばり、飯豊で幸せになる」や「田園の息吹が暮らしを豊かにするまち」は踏襲しながら「人をはぐくむまち」等、目指してまいら5つの種の検証を行うことが第1歩と考えているが、



遠藤 純雄 議員

「暮らし満足度NO1」を実現するために事業の見直しが必要だと感じている。課題の人口減少は、子育て環境や企業支援の仕組みの整備。人口の高齢化は相談体制の充実。免許返納後の高齢者の生活は、ほほえみカーの利便性向上等で対応する。

農業J・クレジット制度の活用はいかに

質問 農業所得向上につながるJ・クレジット制度の活用はどのように考えているか。
町長 これは社会に対

して具体的に見える形で貢献することができ、農業者の収入にもつながるものと考えている。今後、その仕組み、特に国の認証制度を調べ、有効に活用できるように検討していきたいと考えている。

※J・クレジット制度とは。大気中の温室効果ガス(メタンガス・二酸化炭素)を山林・農地の作物で吸収し、酸素を排出することでそれをクレジットとして取引することができる制度。

徹底した雪対策

また、災害復旧は早急に

今の除雪支援で安心して生活できるか
実情を確認し不足ならさらに充実する



屋嶋 雅一 議員

徹底した雪対策

質問 車道や歩道の除雪は人手不足を解消して維持を、消雪設備や防雪柵は県・国に強力に働きかけを。また現在の除雪支援条件は見直しが必要ではないか。

町長 車道や歩道の除雪はこれまでの体制を維持し、消雪設備の改修や防雪柵の設置は国の交付金を活用して整備する。また、除雪支援については実情を確認して、不足ならさらに充実した支援を考える。

支援対象者を全町民に

質問 徹底した雪対策と快適なまちを考えると、除雪支援は全世界対象とすべきでは。

町長 若者の支援は健康福祉課と相談する。除雪機リースなどの支援ができないか考えてみたい。

災害復旧は早急に

質問 今年7月の大雨により、復旧途中の現場が再び被災した。萩生川や中地区の尻無沢川など、7月の大雨で土砂が堆積し、氾濫の原因になる。早急な対応が必要ではないか。

地域整備課長 引き続き県とも調整しながら一日も早い復旧、復興に向け全力で取り組んでいく。萩生川の土砂については、現場を確認して県と検討する。尻無沢川は、今年度中に土砂を取り除く工事に入る。



宅道除雪支援

暮らし満足度NO1の町 に向けた街づくり我问う

5つの柱を掲げ暮らし NO1を目指す



高橋 亨一 議員

5つの提案の実現は

質問 暮らし満足度NO1のまちづくりを目指す5つの柱、住み続けたい町・高齢者の暮らし・子育て・教育・魅力が、実現するまちづくりのトリセツ（対処・対応方法）は。

議会の助言、住民の意見を参考に

町長 この度公約の、「住み続けたい町」「高齢者の暮らし」「子育て・教育」「働きがい」「魅力」の5つの柱を掲げ満足度NO1のまちを実現したい。



選挙結果を受けて

質問 今回の選挙戦、町民が二分となった戦いになった。行政業務に支障のない進め方が求められると思うが、どのように考えるか。

町長 選挙後は、ノーサイドと言われる。多くの町民の皆様に進めたいまちづくりに共感していただき、町政に新たな考えや取り組みに新しい風を吹き込み、町発展に全力で取り組んで行く。

ノーサイドで

町長 選挙後は、ノーサイドと言われる。多くの町民の皆様に進めたいまちづくりに共感していただき、町政に新たな考えや取り組みに新しい風を吹き込み、町発展に全力で取り組んで行く。

これからの飯豊町立義務教育学校について

町長 条例改正を含め開校までの過程において検討する

開校時期と名称の変更は

質問 飯豊町立学校設置条例が昨年12月一部改正されている。第2条で名称が「飯豊町立

いいでの森学園」に改められているが、附則で、「この条例は令和8年4月1日から施行する。」とある。令和8年4月の開校ができない中で、この名称の取り扱いはどうなるか。

慎重に検討する

町長 議論を重ね決定された校名を軽視するのではなく、町民の皆様に愛され、誇れる義

務教育学校にふさわしい名称となるよう、開校まで名称変更を慎重に検討する。

手ノ子小の対応は

質問 令和8年度手ノ子小学校の学年構成は、

1年生が1名、2年生が2名、3年生が4名、4年生が2名となり

5・6年生が不在となる。複式を解消するためにも8年度の第二小学校へ統合することについては。



舟山 政男 議員

早い議論の結果を待つ

町長 第二小学校との統合は、義務教育学校の開校までの極小規模学校及び複式学級解消のための対応の一つであり、教育委員会の早期議論の結果を待つ。



150周年を迎えた手ノ子小学校

電池バレー構想の対応は 脱炭素先行地域再申請

町長 末永く継続してもらいたい バイオガス発電等で再申請

電池バレー構想に 対する町長の対応は

質問 今後町長は電池バレー構想に対してどのように対応するのか。

本町で末永く事業の 継続を

町長 現在の施設や設備を有効に活用してもらい、本町において末永く事業を継続していただきたいと考えている。

専門職大学の 今後は

質問 学生募集をしない専門職大学はどう対応するのか。

承継希望者に期待

町長 専門職大学の承継を希望している方がおり、赤門学院と調整中である。

再開後は入学者の募集を支援していきたい。



来春の学生募集はしない 専門職大学

脱炭素先行地域は 実施可能か

質問 米沢市と共同で「脱炭素先行地域」指定に再申請するという

ことだが、更なるバイオガス発電や液肥ペレット肥料の製造など事業は可能なのか。

経営としても可能

住民課長 現在のバイオガスと同規模(500kw)の発電に必要な牛糞たい肥と食物残渣は年16800トン集められる。液肥のペレット肥料製造も経営は可能である。



遠藤 芳昭 議員

米沢・飯豊脱炭素先行地域 連携プロジェクト

総務文教常任委員会

各課からの主な報告

主な質問と答弁

◆脱炭素先行地域について
「飯豊町地球温暖化対策実行計画」の策定にあたり、米沢市と共同で「米沢・飯豊脱炭素先行地域連携プロジェクト」を立ち上げる。

◆飲酒運転撲滅・冬の交通安全県民運動について
令和6年12月11日、20日にわたり実施され、12日には町内飲食店啓発活動、町内商店・金融機関で防犯啓発活動が実施された。

◆令和7年申告相談日程について
2月6日は中津川地区公民館、2月12日、3月17日までは町民総合センターあすで行う。

◆軽四輪小型動力ポンプ付積載車引渡式について
令和6年12月15日消防飯豊分署において第1分団2部1班（中ノ目）と、第3分団1部1班（松原）に引き渡された。

◆幸福感調査について
第5次飯豊町総合計画の基本理念「やっばり、飯豊で幸せになる」ことを実現するための継続的な取り組みを進めていくために行う。

◆手ノ子スキー場の営業について
12月21日にスキー場開きを行い、令和7年3月2日まで営業する。

◆所得税の非課税
現在国で話題になっている103万円の壁について、178万円に引き上げられた場合と120万円の場合の本町の町税の減収額は、

●消防車両
横山委員 今回更新した2台の車両の使用年数は。また、今後の更新の計画は。

●スキー場の営業
高橋(亨)委員 手ノ子スキー場営業日カレンダー(日程表)は前年度と同様と思う。今年も小雪、雪不足が考えられるがその対策と行事のスケジュールの変更は。物価高の中、使用料の値上げは。

●義務教育学校
島貫委員 義務教育学校開設に向け、今までに要した経費の金額と、校名の変更はどう考えているか。

●マイナ保険証
菅野委員 マイナンバーカードに保険証のひも付けした普及率は。

●税金
住民課長 国民健康保険証は81・8%後期高齢者は70・8%である。

●総務課長
中ノ目は33年、松原は35年経過している。次年度は防火水槽を整備する計画となっている。

●住民課長
今回の申請は11月22日に町長が決定された。住民説明会で出された意見をまとめた後に議会へ説明する場を設定したい。

●高橋(勝)委員
脱炭素先行地域のような大型事業に取り組む場合、申請前に議会への説明の場が必要と思うが。

●住民課長
今回の申請は11月22日に町長が決定された。住民説明会で出された意見をまとめた後に議会へ説明する場を設定したい。

●高橋(亨)委員
手ノ子スキー場営業日カレンダー(日程表)は前年度と同様と思う。今年も小雪、雪不足が考えられるがその対策と行事のスケジュールの変更は。物価高の中、使用料の値上げは。

●島貫委員
義務教育学校開設に向け、今までに要した経費の金額と、校名の変更はどう考えているか。

●菅野委員
マイナンバーカードに保険証のひも付けした普及率は。

●住民課長
国民健康保険証は81・8%後期高齢者は70・8%である。

●総務課長
中ノ目は33年、松原は35年経過している。次年度は防火水槽を整備する計画となっている。

●住民課長
今回の申請は11月22日に町長が決定された。住民説明会で出された意見をまとめた後に議会へ説明する場を設定したい。

●高橋(勝)委員
脱炭素先行地域のような大型事業に取り組む場合、申請前に議会への説明の場が必要と思うが。

●住民課長
今回の申請は11月22日に町長が決定された。住民説明会で出された意見をまとめた後に議会へ説明する場を設定したい。

(総務課)

(社会教育課)

178万円の場合、1億200万円の町税の減収となる見込みである。

雪不足の時は中止になる。電気代の値上がりで経営は大変だが今年度も同額で営業していく。

約2千万円、校歌、校章等でソフトは約百万円となっている。

町長 校名に対する賛否両論の町民の声は耳にしているが、選定の経緯を踏まえ慎重にしたい。

専門職大学は今後どうなるのか

産業厚生常任委員会

各課からの主な報告

◆専門職大学の状況

大学側から、令和7年度の学生募集停止が公表された。さらには、現在の事業の承継予定者との間で覚書案の調整の段階にすすんでいると聞いている。

(質問に際して再説明)

町は文科省と、承継予定者の再認可のための協議をしている。

(商工観光課)

◆上下水道料金の改訂検討について

持続可能な事業経営を図ることと、適正な受益者負担をいただくことを目的に、上下水道料金の改定を検討している。(地域整備課)

◆物価高騰対応重点支援地方創成臨時交付金について

住民税非課税世帯1世帯あたり3万円＋子供加算2万円を国の補正予算可決後に支給する。(健康福祉課)

◆令和6年産米の作況指数及び一等米比率

水稲の作況は平年並みの100だった。一等米の比率は93・1%であった。

(農林振興課)



今後の動向が注目される
専門職大学

質問と答弁

●専門職大学の経営体力に不安はないか

島貫委員 経営が苦しいと聞くが、在学生が卒業するまで赤門学院の経営の体力は大丈夫なのか。

商工観光課長 確かに学生が少数での経営は厳しいが、学院の理事長は責任ある経営をすると言っている。

●専門職大学承継に関して土地の使用は

松山委員 専門職大学の敷地は町の土地であるが、使用貸借契約を終了する場合、通常であれば一定期間前通知することになっているのか。

商工観光課長 今後の方向が確定していないが、契約解除の事前通知は契約事項にはない。契約の定めのない事項は協議の上決定するとされている。

●「美の里」の介護員不足について今後の対応は

遠藤(純)委員 介護老人保健施設「美の里」の不足している介護員について、今後の対応と、現在の待機者の状況は。

「美の里」事務長 待機者はいない。介護職員の労働条件、待遇改善を図りながら、求人を行う。

●防災のために河床整備を

菅野委員 水害を防ぐためにも、河床の清掃が必要ではないか。

地域整備課長 準用河川の河床整備とともに山からの土砂流入にも着目していく。

●農林振興課長 ため池は令和6年度に完成予定。水路土砂浚渫は今年中に行う。

●椿台沢排水路 遠藤(芳)委員 豪雨のたびにツルハ脇を流れる排水路が溢れ被害が出ている。排水路の整備のための取り組み状況はどうか。

農林振興課長 今後は、クランクが連続する状態を直し、八幡排水路に直接導水する水路整備が必要である。

次年度以降、県営事業として実施するよう要望していきたい。



クランク状態の台沢排水路

商工会の発展と地区防災

町民との意見交換会

議会では、広報公聴常任委員会で、公聴活動として地域や各種団体との意見交換会を実施しています。今年度は、飯豊町商工会と黒沢区協議会との意見交換会を実施しました。ご意見や要望を今後の政策に反映するように議会としては一般質問や常任委員会、さらには政策提言として町に提案していきます。

飯豊町商工会

11月29日

【テーマ】

町商工会からの要望

【内容】商工会から以下6点の要望、支援課題を示された。

1. 原油価格高騰等の影響に対する、事業者への支援。
2. 中小企業振興に関する支援。
3. 商業部会から、商業振興に関する支援。
4. 青年部から地域振興に関する要望。
5. 事業承継に関する支援、要望。
6. 安定した商工会運営についての要望。

以上の支援要望を受け、議会として、厳しい現状の認識を改めて確認し、町に対して訴えていくこととした。その内容については12月定例会において政策提言として町に提案した。



富永会長より菅野議長へ要望書が手渡される

黒沢区協議会

12月17日

【テーマ】

1、黒沢地区の地区防災(避難所)について

2、高齢者等への除雪支援について

【内容】

1、黒沢地区の避難所に指定されている「飯豊町勤労者研修センター」が豪雨の際浸水し、たどり着けない。新たな避難所が必要となっている。

内水氾濫も経験している危険な地区である。行政や消防にすべてを頼ることができないため、地域の中で新たな防災計画を作り対応すべきである。

2、近年、核家族化が進行しており、高齢者の夫婦世帯や単身高齢者世帯が増えている。このため、除雪の担

手が少なくなっており、支援を求めている高齢者も多い。日常的な見守りも必要な世帯もあり、地域や隣近所の支え合いが必要となっている。



意見交換状況

「議会が守るべき政治倫理・ハラスメント防止と議会の取り組み」他各講演が催された大会



講演：議会が守るべき政治倫理・ハラスメント防止と議会の取り組み
講師：弁護士 太田 雅幸 氏

講演：議事機関としての質疑質問とは
講師：一般社団法人 地方公共団体政策支援機構 上席研究員 長内 紳悟 氏

① 令和6年度町村議会議員研修会

- 左記の研修会等に参加してきました。
 ※④のみ産業厚生常任委員会正副委員長
- ① 10月25日(金) 午後0時20分
会場 山形国際交流プラザ
 - ② 10月4日(金) 午後1時30分
会場 高畠町生涯学習館
 - ③ 10月18日(金) 午後1時
会場 中津川「白川荘」
 - ④ 11月14日(木) 午後1時30分
会場 山形パレスグランデール
 - ⑤ 11月22日(金) 午後3時
会場 町民総合センターあゝす



講演：ふぁーむなかつがわの取り組みについて
講師：一般社団法人 ふぁーむなかつがわ 代表 鈴木 泉 氏

③ 川西・飯豊両町議会議員交流会



講演：次世代担う人材育成について
講師：高畠町商工観光課 鈴木 祐介 氏
同 齋藤 浩一 氏

② 置賜地方町村議会議長会議員交流会



講演：地方の交通社会問題を解決するための自動運転の社会実装
講師：電動モビリティシステム専門職大学 学長上席補佐 産学連携共創センター長 古川 修 教授

⑤ 第58回西置賜地区市町議会連絡協議会定例総会



講演：SDGs時代の林業・木材産業
講師：林野庁 林政部長 清水 浩太郎 氏

④ 第71回山形県林材業年次大会

令和6年度議員視察研修

廃校利活用でにぎわい創出

長野県飯綱町議会

いっぴなコネクトWEST

期日

令和6年10月10日

11日

参加者

菅野富士雄 議長

屋嶋 雅一 副議長

高橋 亨一 議員

遠藤 芳昭 議員

舟山 政男 議員

松山 和好 議員

高橋 勝 議員

遠藤 純雄 議員

島貫 寿雄 議員

横山 清彦 議員

随行者

色摩 里香 議会事務局長

横澤 剛 企画課

飯綱町議会 総合政策室長

飯綱町議会

青山 弘 議長

原田 幸長 副議長

瀧野 良枝 議員

清水 満 議員

いっぴなコネクト

加藤 貴彰 校長

原田 大企 企画課

堀内 万葉 企画課

地域振興係主任

地域振興係主任

飯綱町議会

飯綱町議会の議会改革の取り組みは、各種メディアや研究者に紹介されたことにより、現在は全国の市町村議会の視察先として選ばれています。取り組みの主なもの、議会と町政への町民の多様な意見・批判・提案を受けやすくし、議会に反映させることを目的に議会広報モニター制度を創設しています。



飯綱町議会の皆さんと

この制度は、町民に広報モニターを公募しその後委嘱。アンケートなどで議会報に対する意見や議会と町に対する要望・意見を寄せてもらう仕組みです。

もう一つの取り組みとして、施策サポーター制度です。これは、開かれた議会にするため、議会活動への町民参加を広げ、町民と協働で政策づくりを行い、町の問題や課題を検討し、学習や自由討議を重ね、まとめ上げたものを政策提言として町に提出しています。

いっぴなコネクト WEST

いっぴなコネクト WESTは、平成17年の合併により廃校となった小学校を、自然・スポーツ・健康をメインとした多様な人々と



食堂として利活用

の交流人口創出型の施設として再活用されています。参考となったことは、閉校となる2年前から地域の方々と行政と共働で検討するプロジェクトチームを設置し議論を重ね、利活用の内容をまとめ、町に提言書を提出するなど、閉校前に地域の方と議論をしっかりと重ね、町にとって一番いい利活用を町ぐるみで生み出している点です。利活用の内容は、皆が楽しく利用でき、多様な人や団体とも交流するなど、交流人口創出型となっています。

まとめ

今回の研修は、開かれた議会を実践するために町民にも議会活動に参加してもらい、議会の見える化を実行し、政策づくりを住民と協働での取り組みや、廃校を活用してにぎわいや活気を生むまちづくりの取り組みなど、本町の課題解決につながるヒントを学べ、再認識させられた点が多くあり、有意義な視察研修でした。



いっぴなコネクトWESTの皆さんと

新年のご挨拶

飯豊町議会議長 菅野富士雄

明けましておめでとうございます。皆様には輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申しあげます。平素より町政に対する関心が一段と高まる中、地域の発展のため相互理解のもと、まちづくりにご協力、ご尽力いただいていますことに心より敬意を表する次第です。

昨年も集中豪雨による大災害が発生しました。我が町も、庄内、最上地方よりは少ない被災だったものの、令和4年災害の復旧中の菰生川等で一からの出直し復旧が現実となり、JR米坂線の復旧も含め、改めて早期の復旧復興に注力すべきであると感じた年でありました。

本年は、昨年11月より就任されました嵐正人町長の町政の舵取りが開始され、若い考え方で町に新しい風を吹かせてくれることを期待しています。新潟・山形南部連絡道路「飯豊区間」の整備促進については、協力会の方々と一緒に要望活動を展開しています。令和7年度においては、計画段階評価から概略ルート、構造の決定に向けて対応方針案が示されるようです。

今後は、更なる議会の活性化に努め、町政発展に寄与する所存でありますので、変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



遠藤	島貫	横山	松山	高橋
純雄	寿雄	清彦	和好	勝
議員	議員	議員	議員	議員
・	・	・	・	・
遠藤	屋嶋	菅野富士雄	高橋	舟山
芳昭	雅一	副議長	亨一	政男
議員	副議長	議長	議員	議員

宮城県七ヶ浜町議会の 視察研修受け入れる



宮城県七ヶ浜町議会の方々が10月15日日本町議会に視察研修のために来庁されました。本議会で取り組んでいる「女性の方との懇談会」「子ども議会」についての研修で、屋嶋副議長と遠藤芳昭広報公聴委員長が出席し本議会の取り組みを説明しました。

女性の方との懇談会と子ども議会の質問を受けて話し合った内容は、開催に至った経緯、進め方、課題と反響、開催の周知方法、開催後の議会としての取り組みなどについてでした。

七ヶ浜町議会として今後の活動に非常に参考となつたとの感想を頂きました。本議会の広報公聴常任委員会としても、改めて今後の開催の必要性を感じました。



七ヶ浜議会と本町の議場にて

町民からのメッセージ「私からひと言」

〈みんなが『ほっと』する場をつくりたい〉

第3回 NPO法人ほっと 高橋 工ミさん(高峰)

高橋工ミさん
(手前から2人目)



議会だよりでは町民の皆様の活躍の紹介と、議会に対していただいたご意見等を紹介しています。第3回は子育て支援の活動をしている「NPO法人ほっと」の高橋工ミさんに活動の内容をお聞きしました。

「ほっと」はどんな活動をしていますか

高橋さん 飯豊町ファミリー・サポート・センターで忙しい家族に代わり子どもの預かりや託児をしています。

他に添川のこどもみらい館派遣業務や赤い羽根地域福祉活動などを行っています。

取り組みのきっかけは

高橋さん 日頃から保育園や幼稚園以外で子どもの預かりの場が少ないことを感じており、誰もがホッとする場が必要だと思ったことです。

活動で心がけていることは

高橋さん 子どもや家族の皆さんと接したとき、みんなが笑顔で生活できるように、困りごとやご苦労を一緒に解決することができればと思っています。

これからのまちづくりに望むことは

誰もが地域の中で暮らしていけるように手を差

し伸べる組織でありたいと思いますので、行政には私たちNPO法人のような組織づくりに、さらに力を入れてもらいたいと思います。



子ども未来館での活動

議会からひと言

多様化する子育て環境の中、必要とされる支援を行うNPO(特定非営利活動法人)です。このような社会貢献組織にこそ手厚い支援が必要と感じました。

議会定例会の傍聴お待ちしております

次回の定例会開催は3月4日(火)予定です。

インターネットからでも見るができます。議会のホームページでご確認ください。



お問い合わせは議会事務局へ TEL 0238-87-0527

編集後記

11月、我が飯豊町において四期十六年町政を担ってこられた後藤幸平町長が退任し、新たに嵐正人町長が就任しました。

国政では秋の衆院選の結果、与野党逆転の構図となり、与党はこれまでとは違う国会運営を求められているようです。

また、30年も上がらなかつた労働者の賃金と低迷していた米価に上昇の動きがありました。令和6年は変革を刻む年になるかもしれません。

(遠藤芳記)

発行責任者

議長 菅野富士雄

発行

広報公聴常任委員会

委員長 遠藤 芳昭

副委員長 屋嶋 雅一

委員 舟山 政男

委員 松山 和好

委員 高橋 清彦

委員 横山 清彦